

数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会（以下、「委員会」という。）にて実施した大阪公立大学「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」（リテラシーレベル、応用基礎レベル）の自己点検・評価結果を、以下のとおり報告します。

No.	点検・評価項目	評価基準	評価結果	評価結果の根拠・理由	改善計画	点検・評価項目に係る根拠資料・データ
1	教育プログラムの履修・修得状況	プログラム科目が学生の所属学部・学科に関わらず履修可能な形で開講され、幅広い学部・学科の学生が履修・修得されていること。	評価基準を満たしている。	・各科目の履修者数及び成績分布から、幅広い学部・学科の学生がプログラム科目を履修・修得していることが確認できる。		【申請様式】 ・様式3「教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について」 ◎学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等 【委員会資料（学内限り）】 ・2022年度第1回（2022.6.21開催） 資料5-5「2022年度前期履修者数・後期開講科目」 ・2022年度第2回（2022.9.13開催） 資料2-1「2022年度前期成績情報」 ・2022年度第3回（2022.12.19開催） 資料1「2022年度後期開講科目_履修状況」 ・2022年度第4回（2023.3.7開催） 資料1「2022年度後期成績情報」
2	学修成果	学生がプログラム科目の到達目標を一定以上達成し、学修成果を実感していること。	評価基準を満たしている。	・授業担当教員による授業実施報告から、学修成果が得られていることが確認できる。 ・各科目の「授業ふり返り（授業評価アンケートを含む）」から、学生がプログラム科目の到達目標を一定以上達成できていること、学修成果の満足度も高いことが確認できる。		【委員会資料（学内限り）】 ・2022年度第2回（2022.9.13開催） 資料2-2「数理・データサイエンス基礎B（杉本）講義概要（第2版）」 ・2023年度第1回（2023.4.13開催） 資料2-2「授業ふり返り（授業評価アンケート含む）集計結果」
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、後輩等の学生への推奨度	学生がプログラム科目の内容を理解していること。	評価基準を満たしている。	・各科目の「授業ふり返り（授業評価アンケートを含む）」から、学生がプログラム科目の到達目標を一定以上達成できていること、学修成果の満足度も高いことが確認できる。（No.2再掲）		(No.2再掲) 【委員会資料（学内限り）】 ・2023年度第1回（2023.4.13開催） 資料2-2「授業ふり返り（授業評価アンケート含む）集計結果」
4	学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	学生がプログラム科目の履修を後輩等の学生へ推奨していること。	評価基準を満たしている。	・各科目の「授業ふり返り（授業評価アンケートを含む）」から、学生がプログラム科目の履修を後輩等の学生へ推奨していることが確認できる。		(No.2再掲) 【委員会資料（学内限り）】 ・2023年度第1回（2023.4.13開催） 資料2-2「授業ふり返り（授業評価アンケート含む）集計結果」
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画が適切に進捗していること。	評価基準を満たしているが、さらなる改善の余地がある。	・プログラム履修者数・修了者数、履修率の推移（見込）が適切に推移している。 ・全学生向け「副専攻ガイド」及びプログラムWebサイトに、学生の履修の参考となる情報が適切に掲載されている。 ・全学的な履修者数、履修率向上に向けた取組は適切に行われているものの、明示的な計画が策定されていない。 ・科目編成等を計画的に見直し、学生により分かりやすい教育プログラムとする必要がある。	・「全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画」策定の検討を行う。 ・学生により分かりやすい科目編成の検討を行う。	【申請様式】 ・様式2「プログラムの履修者数等の実績について」 ・様式3「教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について」 ⑧履修者数・履修率の向上に向けた計画 ・様式3「教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について」 ⑩できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組
6	授業内容・方法、シラバス記載内容の改善	シラバスの記載内容を改善する仕組みがあり、各科目がモデルカリキュラムに対応していること。	評価基準を満たしているが、さらなる改善の余地がある。	・全学的に「大阪公立大学シラバス作成要領」に基づいたシラバス記載内容の点検を行っている。 ・委員会を通じて授業担当教員に依頼し、プログラム科目のシラバス記載内容の充実を図っている。 ・教育プログラムに対する授業担当教員の理解度を向上する必要がある。	・全学委員会等を通じてプログラムの学内認知度向上を図る。	【委員会資料（学内限り）】 ・2022年度第3回（2022.12.19開催） 資料3-1「シラバス記載内容の充実について」 【全学教務委員会資料（学内限り）】 ・2022年度第5回（2022.10.5開催） 資料3「授業シラバス作成依頼について」

数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会（以下、「委員会」という。）にて実施した大阪公立大学「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」（リテラシーレベル、応用基礎レベル）の自己点検・評価結果を、以下のとおり報告します。

No.	点検・評価項目	評価基準	評価結果	評価結果の根拠・理由	改善計画	点検・評価項目に係る根拠資料・データ
7	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	学外機関からの意見を聞き、教育プログラムの改善に繋がっていること。	評価基準を満たしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の先行事例、産業界等の取組事例を委員会で共有し、教育プログラムの改善に繋がっている。 ・「データ関連人材育成関西地区コンソーシアム」「学びのイノベーション・プラットフォーム」に参画し、得られた知見を学内で共有することで教育プログラムの改善に繋がっている。 		<p>【委員会資料（学内限り）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回（2022.6.21開催） 資料4「人文・社会科学系大学における数理・データサイエンス・AI教育に関する先行事例」 <p>【数理・データサイエンス教育研究センター会議資料（学内限り）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度第1回（2022.7.27開催） 資料3「2022年度からのDuEX運営体制」 資料5「知識・スキル・経験のデジタル証明としてのオープンバッジの戦略的活用」 ・2022年度第2回（2022.11.1開催） 資料3-1「学びのイノベーション・プラットフォームとの連携及び協力について」
8	運営・実施体制	教育プログラムの運営及び実施に十分な体制がとられていること。	評価基準を満たしているが、さらなる改善の余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムは適切に運営・実施されているものの、管理運営の責任者としての専任教員の配置など、不断の改善・進化に向けた更なる体制強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より効率的・効果的な運営・実施体制の検討を行う。 	<p>【申請様式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様式3「教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について」 ⑦具体的な構成員 <p>【学内規程等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数理・データサイエンス教育研究センター運営要項 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会要項